



あいちスポーツイノベーションプロジェクト
「スポーツDXによる新レガシー共創事業“AiSIA（アイシア）”」
2023年12月

今が愛知県でスポーツイノベーションを起こす最大のチャンスです。



STATION Aiのオープン



愛知国際アリーナの開業



アジア・アジアパラ競技大会の開催

スポーツ産業の高付加価値化、
オープンイノベーションを通じた
新たなビジネスチャンスの期待

スポーツの成長産業化、
スポーツを通じた地域の活性化の期待

スポーツイノベーションの基盤創設

国内外の大規模スポーツ大会開催地等が取り入れたくなる 新サービス（レガシー）を共創します

レガシーの創出を目指し、国の「スポーツ立国戦略」に掲げられている「みる」「する」の間に「ふれる」の軸を新設。
三つの軸を推進し、愛知県内のスポーツ分野を「ささえる」基盤を創設します。

みる ← みる みる ← ふれる ← みる みる ← する する



Aichi Sports Innovation Axle[※] (AiSIA)

愛知県のスポーツイノベーションをささえる新たな基盤

※Axle：車軸。クルマの滑らかな走りに欠かせない心臓部分。

みる：県内スポーツチーム横断 新サービス共創プログラム

- 2024年度よりバレーボール・ハンドボール・バスケットボールでリーグ改革が進む中、各競技の県内チーム・クラブが垣根を越えて連携・協働し、観客増を実現する共創プログラムを運営。[※]



出典：aispolweb

愛知県内に拠点を置くスポーツチーム
(野球・サッカー・バスケ・バレー・ハンドボール等)



県内外のスポーツに関わる
テクノロジー等を有する企業群

競技・チーム横断型の新サービスを共創することにより県内全域で集客力を底上げ

※審査基準の変更等による新リーグへの移行

する：障害・身体の制約を超えるメタバースでのマラソン大会開催

- 2012年の開催以来「ホイールチェアマラソン」「オンラインマラソン」が加わった「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知」の魅力を、走ることが困難な人へも広げていく。
- スポーツでDEI^{※1}（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）を具現化する、「アダプテッドマラソン大会」^{※2}をメタバース上で開催。

【開催イメージ】



重度肢体不自由者の動かせる
部位の活動量
×
係数 X(行動により変動)

健常者の消費カロリー相当に換算
アバターの選択や育成の「公平性」に反映



愛知発、国内外に売れるスポーツ×デジタル×DEIの参加型コンテンツ開発

※1 DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）

…Diversity（多様性）・Equity（公平性）・Inclusion（受容性）の頭文字を取った言葉。
一人ひとりの個性を尊重し、それぞれに合った公平な環境を用意することで不均衡を整え、
多様性を受容する社会を実現する考え・取組

※2 アダプテッドスポーツ

…身体能力や年齢・障害等の有無に応じてルールや道具を工夫して、スポーツを一人ひとりに
適応させるという発想。



ふれる：気軽に体を動かすきっかけとなるAIによるスポーツ診断スポットの提供

- 「みる」「する」に進むことを後押しするために、街の小さな空間を活用。
- スポーツ習慣がない人も気軽に立ち寄り、AIによる体のチェックや「向いているスポーツ」の診断などが受けられるスポットを運営。

ふれる

【設置場所（例）】



商業施設の一角等
日常動線上にスポットを設置



【活用テクノロジー（例）】



DigSports:(株)電通国際情報サービス(ISID)

AI診断により向いてるスポーツを
レコメンド

みる



スポーツ観戦

観戦クーポンなどの
配布

体験会などの
情報提供

する



スポーツ体験

スポーツに近づきやすい日常に

3か年のロードマップ（想定）

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度～

STATION Aiオープン

愛知国際アリーナ開業

アジア競技大会 アジアパラ競技大会



県内スポーツチーム横断
新サービス共創プログラム

共創プログラム・実証

ピッチイベントを通じて実証案件を選定

新サービス実装

実証結果を踏まえ、各競技の公式戦で実装

利用促進・外販

コンテンツ外販に向けたプロモーションの実施



AIによるスポーツ診断
スポットの提供

市場調査・実証

テクノロジーの選定と商業施設等での実証実験

ショーケース化

新たな技術を体験できるショーケース開催

事業化・外販

県内でのスポット拡大



メタバースでの
マラソン大会開催

開発・実証

デモコースの試作モデル開発と実証実験

実装

本開発、第一回大会の開催

利用促進・外販

国内外大会運営者・観光協会等に横展開

他の大規模スポーツ大会開催地へ波及

今後のプロジェクト推進体制

- プロジェクトの推進母体となる「**Aichi Sports Innovation Axle (AiSIA)**」を創設。
- **2024年1月から愛知県・中日新聞社で検討チームを立ち上げ、プロジェクトの具体化に向けた検討を開始。**
 - ※ 検討チームは、あいちスポーツイノベーションプロジェクトの推進母体となるコンソーシアム (AiSIA) の体制や取組内容について、具体化を図っていく。

革新事業創造戦略会議

※イノベーション関係の有識者で構成

報告

助言

Aichi Sports Innovation Axle (AiSIA)

- ◆ **事務局メンバー**
(株)中日新聞社 (提案者)、愛知県 (あいちスポーツコミッション事務局)
- ◆ **構成員**
上記に加え、スポーツに関連する企業・大学等の参画を想定
- ◆ **外部アドバイザー**
名古屋商工会議所、中部ニュービジネス協議会等

「AiSIA」により、愛知をスポーツイノベーションの集積拠点に！
～スポーツの成長産業化、スポーツを通じた地域の活性化を図ります～

愛知発
国内外に広がる
スポーツ×デジタル
新サービス

Ⅲ. スポーツと他産業の融合

～スポーツ「で」ビジネスを～

愛知をスポーツ
コンテンツの
集客拠点に

スポーツ×デジタルが
一人ひとりの
エンターテインメントに

Ⅱ. スポーツの価値高度化

～スポーツ「を」ビジネスに～

スポーツのイノベーションをドライブするプレーヤーたち

Ⅰ. スポーツに関わる

人材の育成

愛知県のスポーツイノベーションを **ささえる** 新たな基盤 (AiSIA)